

次ページへ続く

Continued on next page...

(影印改編) 古今蔵書家印記

渡辺守邦

高知県の佐川町は、高知から西へ三十キロほど行った、土讃線と松山へ行く国道の分岐する要衝の町である。駅から徒歩十分、造り酒屋の工場と倉庫の間の、あま酸っぱい匂いのただよう道をぬけて、左に曲った小公園の奥、佐川町奥ノ土居という所に、高知県立郷土文化会館分館青山文庫がある。維新の際活躍し、後に宮内大臣になった伯爵田中光顕の収蔵品を蔵し、遺墨、文書などを展示している。また、高山寺旧蔵の明恵上人自筆文書、五山版『仏制比丘六物図』、狩谷校斎手沢の『天禄琳瑯書目』を始めとする旧蔵書もここに保管されている。

かつて長沢規矩也氏が漢籍の調査に赴いて、目録を作られたことがあり、その解説に、蔵書印譜の所蔵される旨の報告があった。是非見たいものと念願しつつ、訪書する機会に恵まれたのは、昭和六十年の春のことであった。来意を告げると、書庫に案内されたが、二万三千冊に及ぶという旧蔵書の内から、書型も体裁も分らない一冊を探し出すのは、容易なことではなかった。同行者と二人手分けをして探したが、なかなか

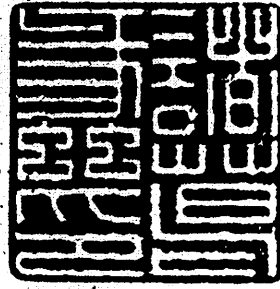
見つけ出すことができない。悪戦苦闘の末、諦めようとした時、半紙本二十丁の瀟洒な和綴本が手に触れたのは、奇跡であったというべきかもしれない。入口から三列目の書架であったと記憶するが、そこはすでに二回も調べたはずの所であった。

今回ここに許しを得て影印する『古今蔵書家印記』がそれである。半紙本の大きさであるところから、B五判の内に、そのままでは収めることができない。よって、本誌五号および六号に載せた『博愛堂集古印譜』にならって改編する。その要領は、凡例に記すごとくである。

蔵書印の集成には、おおむね二種類のやりかたがある。一は印記を切抜くものであり、当然のこととして原寸、原色の印影を収めうるものの、文字にかかったり、損傷を蒙っていたりして、必ずしも完璧な形を示さない、という欠点を伴うことが多い。もう一つのやりかたは、薄い紙を印影に当てがって上から模写する方法で、綺麗には仕上がるものの、正確さにおいて完全ではない。青山文庫の『古今蔵書家印記』も後者すな

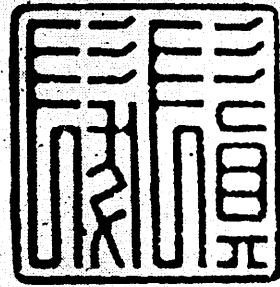
諸葛琴印

辟邪鈕



長鼻髪

鈕制同上



諸葛琴台印二種
(静嘉堂『涵月楼印譜』)

日下部文庫

日下部文庫印
(国会『諸家蔵書印一覽』)

わち墨による透き写しであって、寸法、印色に難を残すうらみはある。いま、比較のために模写の対象となった印影の一例を示してみる。諸葛琴台の印譜集『涵月楼印譜』(静嘉堂文庫 一〇七/四三色) 及び堀直格編『諸家蔵書印一覽』(国会図書館 は/三四) 所収の実鈴印である。本書の通し番号(73)(46)等と対照してみていただきたい。

しかし、本書の価値はその内容にある、ということができようであらう。他書に載せない珍しい印影と記事に富んでいる。

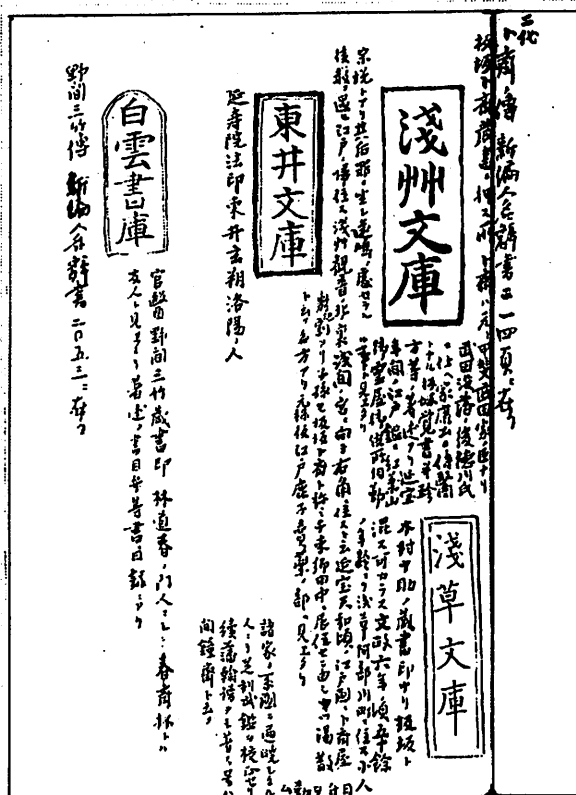
一例を挙げれば、(2)の浅草文庫の蔵書印がそれ。世に「浅草文庫」

印は五種ある、という。時代順に言えば、板坂卜斎、堀田正盛、木村梅年、官立浅草文庫、大槻如電の五つ(小野則秋氏『日本蔵書印考』一五四ページ)である。このうち、堀田正盛、木村梅年の用印は、いままでも管見に入らなかったが、本書によって、木村梅年の印を、小異はあるもののいわゆる官立浅草文庫の印に酷似し、誤伝かとの懸念を感じつつも、はじめて確認することができた。ほかにも初見の印影は少なくない。さらに、解説記事についても、江戸時代後期の有名無名の愛書家の消息を伝える点を貴とすることができよう。鶴岡八幡宮に立原翠軒が納めたと

いうのは、蔵書であろうか、それとも〔8〕の印類自体のことなのであろうか、確かめてみる必要があるであろう。

終りに、青山文庫および関係者各位に、本書閲覧に際して賜わった格別の御好意と、影印を許しくださったことに、心からお礼申上げる次第である。

『古今蔵書印記』初丁オ



凡例

- 一、『古今蔵書家印記』の影印である。
- 一、本書は田中光頭（青山はその号）の旧蔵書であり、「昭和第五年寄蔵于／青山文庫田中光頭」「大正拾五年寄蔵于／青山文庫田中光頭」の二種の押捺がある（整理番号 〇九三／二七／S）。
- 一、原本は半紙本一冊、二四・四×一六・六センチ、萌葱色絹地表紙、全二〇丁（扉一、墨付一四、後遊紙五丁）である。
- 一、雁皮紙に透写した印影を各半丁に四印程度載せ、下部余白に、使用（所蔵）者に関することを主にした考証を毛筆で記す。そのうち、印影は原寸で掲出した（表紙は八五パーセントに縮写）が、記事は、底本の片かな表記を平がなに改め、句読点を補い、活字に直して組んだ。
- 一、配列の順序は、ほぼ底本のままであるが、スペースの都合で、変更した箇所もある。前項ともども、「改編」を冠する所以である。
- 一、考証の記事中、「新編人名辞書」（「新編」とも）云々は、墨色を異にする。ただし同筆と認められるところからして、時間を隔てての書込みなのであろう。
- 一、「新編人名辞書」とは田口卯吉編『大日本人名辞書』（初版、明治一九）のことであろう。版を重ねて講談社学術文庫所収の版にまで至るが、本考証中のページ数表示は同文庫のページ・ノンブルとも一致する。

一、新たに印文と使用（所蔵）者名を記して印影に添えた。各項右肩の通し番号以下の行がそれ。印文は通行の字体によって表記した。

一、難解な印文を水田紀久氏に解説していただいた。お礼を申し上げますとともに、示教を仰がなかった印記に誤読のあらんことを恐れて、ここに文責の編者にあることを明記したい。

一、〔37〕の印は、南禅寺の可翁宗然ではなく、画僧の可翁仁賀と思われるが、底本の記事を尊重し、この種のコメントを加えていない。

古今藏書家印記

093
27
S

1 浅草文庫 (板坂 卜斎)



板坂卜斎蔵書に押す所。卜斎は元と甲斐武田家の臣なり。武田没落の後、徳川氏に仕へ、家康公の侍医となる。『板坂覚書』并『珍方』等の著述あり。延宝年間の『江戸鑑』に、紅葉山御霊屋御供所相勲宗悦とあり。其后罪に坐し、遠嶋に処せらるる事と見あたり。後赦に遭ひ、江戸に帰住す。浅草観音の北の裏、浅間の宮に向て右角に住すと云。延宝天和頃の江戸図に卜斎屋敷の地割あり。子孫も板坂卜斎と称し、千束郷田中に居住せし由也。かつ湯散と云ふ名方あり。元禄板『江戸鹿子』売業の部に見あたり。二代卜斎の伝、「新編人名辞書」二二四頁に在り。

2 浅草文庫 (木村 梅年)



木村十助の蔵書印なり。板坂と混す可からず。文政六年の頃、五十余の年齢にて、浅草阿部川町に住す。小人目付を勤む。諸家の系図に通曉したる人にて、『足利武鑑』を校正せり。『続藩翰譜』をも著す。号は間鐘斎と云ふ。

3 東井文庫 (曲直瀬 玄朔)



延寿院法印、東井玄朔。洛陽の人。

4 白雲書庫 (野間 三竹)



官医野間三竹蔵書印。林道春の門人にして、春齋杯とは友人と見えたり。著述の書目『弁等書目録』にあり。野間三竹伝、「新編人名辞書」二〇五三に在り。

6 備州玉浦 虎五郎文庫 (虎五郎)

備州玉浦

虎五郎文庫

虎五郎は西国備州玉浦の豪商と云ふ。寛政の初年、大坂及江戸に來り、唐本類數種を売ると云。

5 南畝文庫 南畝 (大田 南畝)



太田直次郎、名は覃、字は子紹。蜀山人又は南畝、杏花園、遠桜、石楠齋等の諸号あり。駿河台太田姫稲荷の向に住す。博識にして尤も狂歌に妙なり。蜀山人の伝、「新編人名辞書」五八九に在り。

7 土氏安卿



土屋守楷の藏本に押す所。

8 鶴岡文庫（鶴岡八幡宮）



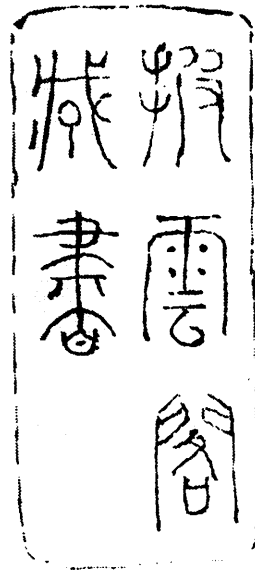
相州鶴岡八幡宮文庫の印。中古水戸儒臣立原甚太郎の納むる所と云ふ。

10 帯江文庫



小石川御門内、戸川之印。

9 披雲閣藏書（高松藩校）



高松侯藏書印。

11 蘭陵藏書（田中 蘭陵）



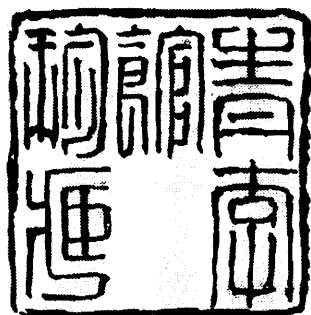
田中良暢、字子舒、号蘭陵、通称武助。東郡の人。荻生徂徠門人。

12 岸本家藏書（岸本 由豆流）



岸本讃岐。名由豆流、字大隅、又号栢園、又号尚古、考証園。国学者なり。江戸銀街二丁目に住す。「新編人名辞書」八二二に在り。

14 青李館珍藏



松下主水の蔵印。元鳥越に住す。沢田東江に書を学ぶ。

13 久昌院藏書 那須恒徳（那須 玄竹）



二印共篆字

陰文

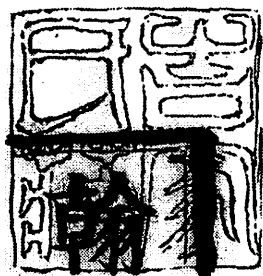


陰文

官医那須玄竹 字恒徳、号久昌院。「新編人名辞書」一九四六に在り。

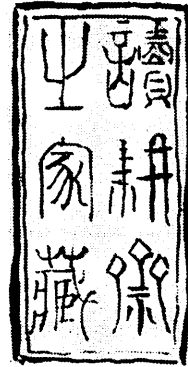
15 吉氏家蔵 称意館藏書記（吉田 意庵）

陰文



称意館吉田意庵法眼蔵書印。

16 読耕斎之家蔵（林 読耕斎）



林春徳蔵書印。春徳は弘文字士法眼春斎の舍弟なり。「新編人名辞書」二二三六にあり。

18 必端堂図書記（小島 梅外）



小島酉之助、名筠、字克従、号梅外。詩人。江戸御蔵前に住す。此の人小島屋を出て、下谷広小路くす木と云ふ菓子屋になる。今は俳人なり。詩文集の唐本及法帖を多く蔵す。

17 醒斎図書



金吹町鍵屋半兵衛之印。

19 宜雨書楼



信州岩村田人渡辺民次郎、名碧、字海庵、号屏山。

20 静寄軒図書印 (尾藤 二洲)



尾藤良助、静寄斎図書印。「新編人名辞書」二二七七にあり。

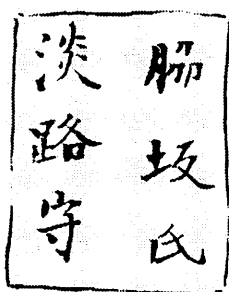
21 増島氏図書記 (増島 蘭園)



聖堂附御儒者増島金之丞。「新編」二四三六に在り。

22 八雲軒 脇坂氏淡路守 藤亨 安元 (脇坂 安元)

陰文



書篆文陰

陰文



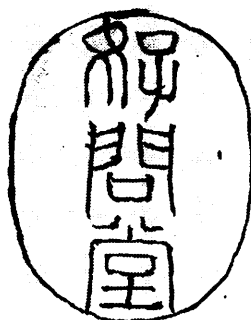
亨藤



元 安

以上四印、播州龍野脇坂淡路守蔵書印。脇坂安元の伝、「新編」二八七八に在り。

23 好問堂 (山崎 美成)



長崎屋新兵衛蔵書印。

25 遂我堂



井上儀助蔵書所押印。亀田鵬斎門人。

24 孝經樓 (山本 北山)



秋田藩儒者山本喜六、名信有、字天禰、号北山人、又号孝經樓主人、学半堂、竹堤園隱逸。江戸下谷金杉に住す。著述多し。文化九年五月十八日没。「新編」二七七九にあり。

26 正貞 見宜 与住草屋 (古林 見宜堂)



古林正貞。

27 島家蔵印



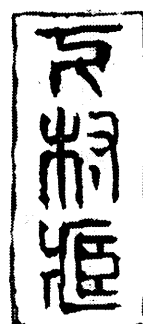
八丁堀島喜太郎。与力衆。

29 桂華蔵書 (望月 三英)



官医望月三英、名乗、字君彦、号鹿門山人。

28 下村蔵



根岸、下村長門守。日光御門主附人。

30 養安院蔵書 越知氏 (越知 雲夢)



陰文



官医貞名^(ママ)瀬谷安院。享保年中、徂徠門人。

31 □ 芸斎 (近藤 棠軒)



近藤大作。

32 横川 景三 (横川)



相國寺景三、字横川、名小補。明応二年十一月廿七日寂。

33 畳翠閒房



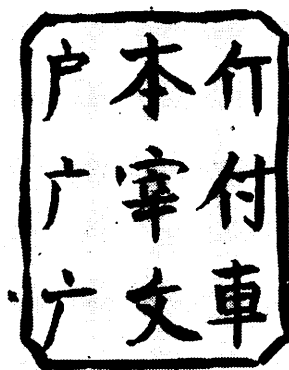
信州上田人、土屋善右衛門、名光潔、字廉夫。

34 松屋 (小山田 与清)



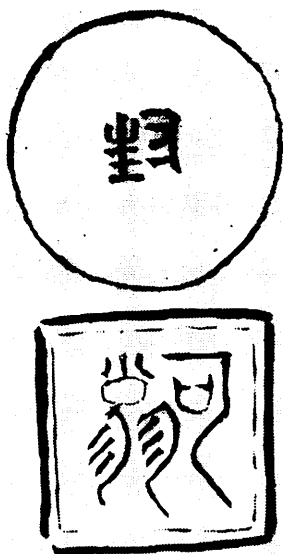
松屋、高田与清。小山田与清の伝、「新編」六三三に在り。

35 本所宰府文庫（龜戸天神社）



龜井戸太宰府天満宮神職。御連歌衆の家。

37 封 可翁（可翁）



南禅寺可翁宗然。能画。貞和元年四月廿五日寂。

36 翠岩（翠巖）



京兆大徳、翠巖宗珉禪師。江月の法嗣。寛文四年甲辰七月廿三日寂。

38 県壺室蔵書（古屋 昔陽）



古屋十二郎。

39 西山堂 (西山堂)



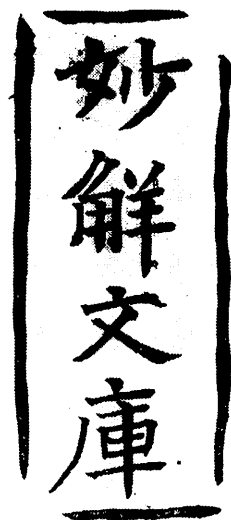
東都書林。保次郎、名保人。文政の頃。

41 杉浦文庫



本郷杉浦蔵之丞。

40 妙解文庫 (東海寺妙解院)



品川東海寺塔中妙解庵。

42 山岡文庫 (山岡 明阿)



山岡佐次右衛門明阿弥。

43 中山文庫



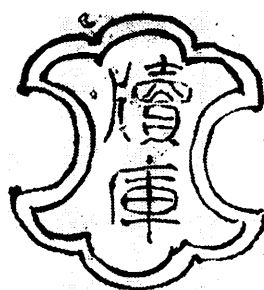
本所辺の旗本衆。

45 不忍文庫 (屋代 弘賢)



屋代太郎、名弘賢、号輪池。「新編」二七〇三にあり。

44 牘庫 (内藤 風虎)



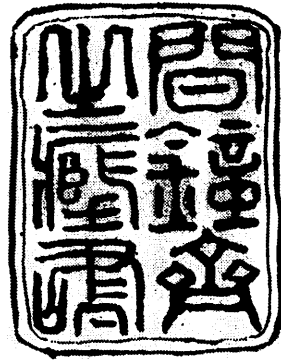
日州延岡侯。

46 日下部文庫



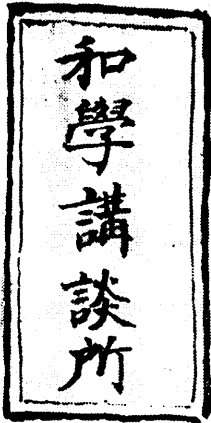
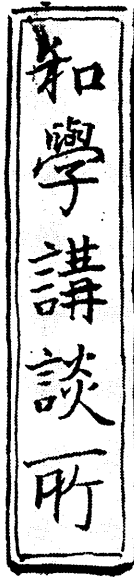
御右筆日下部。

47 間鐘斎之蔵書（木村 梅年）



卷首に載する所、木村十助蔵書印。「浅草文庫」同人。

49 和学講談所（和学講談所）



稿檢校保己一。伝、「新編」二二〇七に在り。

48 佐伯文庫（毛利 高標）



豊後佐伯毛利侯。

50 桂川家蔵（桂川 甫周）



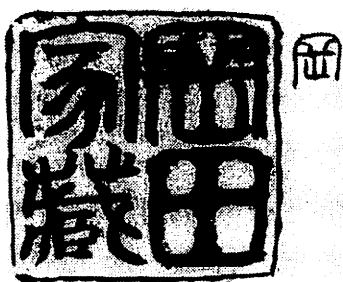
桂川甫周。伝、「新編」七〇六に在り。

51 永根氏家蔵印



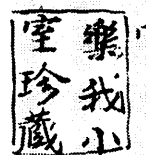
永根鉉、号伍石。弘前人。仕姫路侯。天保九年戊戌七月没。

53 岡田家蔵（岡田 新川）



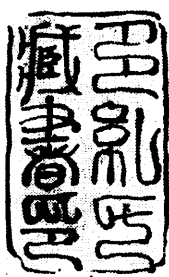
尾州、岡田挺之。

52 善庵三十年精力所聚 樂我小室珍藏
（朝川 善庵）



朝川善庵。伝、「新編」三九にあり。

54 多紀氏蔵書印（多紀 元徳）



多紀安元蔵書印。藍溪。姓丹波、名元徳、称永寿院。

55 聿修堂（多紀 元簡）



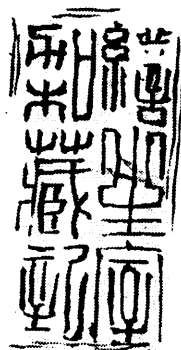
男、名元簡、字廉夫、初号桂山、又櫟窓と云。東都医学館を預る。右一人の伝、「新編」一五一五にあり。

57 盛方院蔵書印 盛方院（吉田 盛方院）



葉研堀、吉田盛方院。

56 繕生室架蔵記（桂川 甫周）



前に出づ。

58 容斎蔵（東条 琴台）



東条琴台。伝、「新編」一七四〇に在り。

59 竹内氏蔵書記（竹内 玄同）



市谷の近所、医官竹内氏。

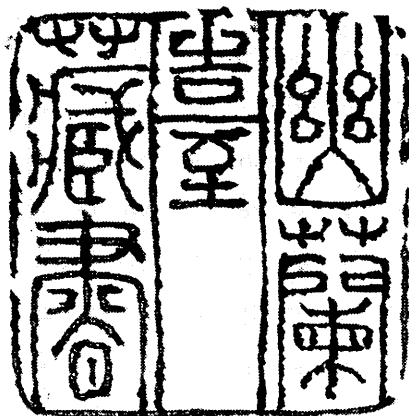
60 景雲館図書記（半井 卜養）



篆字陰文

半井大和守卜養。伝、「新編」一九四〇にあり。

61 幽蘭台蔵書（烏山藩大久保家）



烏山侯。

62 再昌館藏書



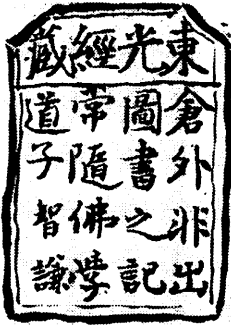
北村季吟法印の藏書印か、未詳。

63 来禽堂図書記（沢田 東江）



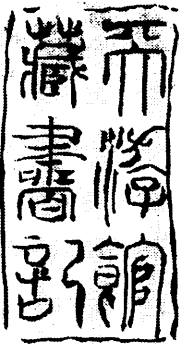
江戸村松町住、沢田文次郎、東江、源鱗。安永頃の書家。
「新編」一一八五にあり。

64 東光経藏倉外非出図書之記常随仏学
道子智謙



浅草東光院寺中随仏子藏書印。歌学を好み、風流の人。文
化中寂す。

65 天游館蔵書記（伊東 藍田）



藍田家。東都、東亀年。

66 証月（証月）



東叡山中護國院第二世。

68 釈氏玄光（独庵）



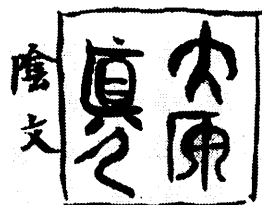
曹洞宗、長崎、玄光、号独庵。著述数品あり。

67 龍谷山（西本願寺）



京都、西本願寺。

69 大原徳 武暔



熱田権禰宣、元文年間。

70 君彝 重鼎之印 (山井 重鼎)



陰文

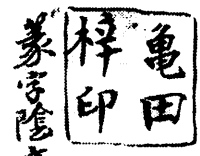
本姓は山井、名は鼎、字は君彝、号は崑崙。徂徠の門人。紀藩の書室となる。『七経孟子考文』を著す。享保頃。通称善六、大神重鼎。

72 詞華堂 (細井 貞雄)



細井貞雄。伝、「新編」二二六八二にあり。

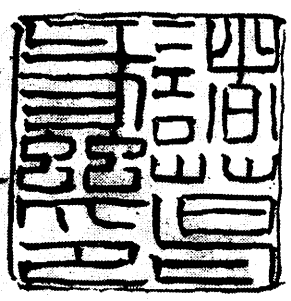
71 龜田梓印 木王氏 (龜田 鵬斎)



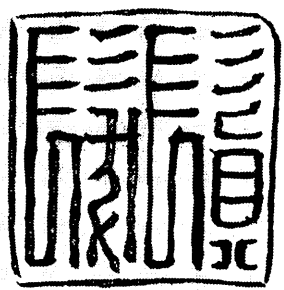
篆字陰文

龜田文左衛門男、龜田三藏、号鵬斎。又「善身堂」の印あり。後に出づ。伝、「新編」七九三に在り。

73 諸葛蠡印 鬢髮 (諸葛 琴台)



陰文



諸葛次郎太夫、字蠡。伝、「新編」二二六九六に在り。

74 閒鈴斎藏書



松岡 健四郎

浅草阿部川町に住す。御家人衆。長崎手付を勤め、多く書籍を取扱ふ。文政五年正月没、五十有余歳。

75 照螢館図書記



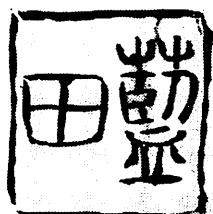
市川 加賀守
江戸 市川 加賀守

76 善身堂（亀田 鵬斎）



前に出づ。

77 藍田（伊東 藍田）



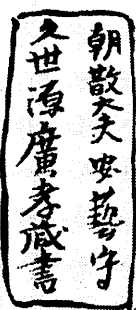
東龜年。前に出づ。

78 春木文庫（春木家）



伊勢の神主。將軍家の御師、春木太夫の蔵書印。

79 久世氏文庫 朝散太夫安芸守久世源
 広孝蔵書（久世 広孝）

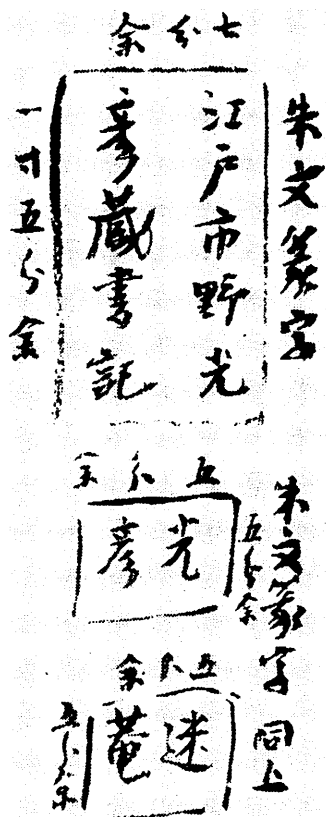


80 根津文庫（森 尹祥）



根津住、森伝右衛門蔵印。御奥御石筆。和学者にて、千蔭
 同時と云ふ。

81 江戸市野光彦蔵書記 光彦 迷菴（市野 迷庵）



「新編」二四七にあり。

